第55号

カナリヤ通信

施工管理技士専門の人材派遣会社「ウィルオブ・コンストラクション」

東京都魅力ある建設事業推進協議会（CCI東京、委員長・樫山和男中央大理工学部長）が創設した「若手技術者・女性技術者活躍大賞」の第1回で、派遣会社から唯一の受賞となった岡本温子さん。産休・育休から復帰した前職で、現場に出ない部署となったことを契機に派遣会社「ウィルオブ・コンストラクション」に転職し、いまは大手ゼネコンの土木工事で現場管理に汗を流す。「構造物ができあがった時の感動が最高」と満面の笑みで建設業のやりがいを語る顔には、〝充実感〟と〝希望〟があふれていた。

CCI東京若手・女性技術者活躍大賞

鹿島の現場、派遣会社で唯一受賞

岡本温子さん

あふれる〝現場愛〟

専門工事業の経験生かし若手指導

前職は、土木系の専門工事会社で現場管理に従事していた。〝現場〟が楽しかったものの、東北への転勤から東京に戻った際に現場以外の部署への配属となった。当時は「妊活しようと思っていたので、その部署でも良いと思っていた」という。

だが、妊娠し、子どもが生まれて復職した時に、「やっぱり土木がしたい。現場に出たい」という思いが募った。「次に働くならステップアップしてゼネコンの現場管理をしたい」と考え、施工管理技士専門の人材派遣サービスを展開するC4（現ウィルオブ・コンストラクション）の門をたたいた。

現在は鹿島が施工する「東大島幹線及び南大島幹線その4工事」（発注者＝東京都下水道局）で、シールド到達立坑の構築工事を担当している。「これまで特定の工種しか知らなかったが、ゼネコンでは現場にかかわる全工種を見られる。経験豊富な社員もいて、施工面や安全面でとても勉強になる」と元請けの現場管理の魅力を語る。後輩の指導では前職が生きる。

「若手技術者・女性技術者活躍大賞」への推薦者でもある鹿島の祖父江秀司所長は「イライラせず親切丁寧だが、着地点だけ指導し、プロセスは後輩の判断に任せ、間違っていた場合は後輩自身に気付かせることで育てていく方針としているので、教えられる側の理解が早い」と岡本さんの指導を表現するが、その裏には「前職の経験から、職人が手抜きしたいところも分かるので、大事な部分を指導できる」（岡本さん）という強みがある。

育児への理解で両立

出産前は「特定の現場を担当し、休日も関係なく電話がかかってきていた」という前職の就労環境でも問題はなかったものの、育児中はそうはいかない。「朝は職人さんを迎え入れたい」というこだわりから午前7時ころには出勤するが、午後6時ころには帰宅の途について午後6時半までに保育所に駆けつける。

「現場の方々が育児中であることを理解してくれて、勤務時間も柔軟に変えてもらえる。子どもが熱を出した時は基本的に夫が対応してくれるが、どうしても自分が対応しなければならない時も快く送り出してくれる。とても働きやすい」と、WLB（ワーク・ライフ・バランス）上の現職の良さも感じている。

子育てと同時に、仕事にも全力だ。祖父江所長は「重要ではないが決して無視してはいけない『看板の汚れ拭き取り』『周辺道路の雑草処理』『事務所玄関前の靴の向き』など、なかなか気がつかない、気づいてもできない作業を誰に言われることなくこなし、細かなところまで目が行き届いている。非常に現場に対して前向きで、現場の活力になっている。性別は一切関係なく、優秀な技術者で、言うことがない」と岡本さんの働きぶりを評する。

これは岡本さんの〝現場愛〟があってこそ成せる業だ。「図面とにらめっこして、職人に伝え、形になるまでのプロセスと、できあがった時の感動が最高。いまの工事でも地下30―40㍍で仕事しており、スケール感がすごい」と話す時の、満面の笑顔が建設に携わる魅力・やりがいのすべてを物語る。

出産後の心境の変化もある。「安全への意識が変わった。事故が起きて自分がいなくなったら、家族が困る。職人一人ひとりにも家族がいると思うと、毎日を安全に帰ってほしくて、つい口うるさく言うようになった」

出産、転職、育児のすべてを自らのワークライフの糧としてきた。「いまは育児で働く時間に限りがあるため派遣で働いているが、子どもが大きくなれば、元請サイドの仕事がしたいという希望はある」と、未来を見つめる。

CCI東京若手・女性技術者活躍大賞の授賞式で家族と記念撮影

鹿島の土木現場で汗を流す岡本さん

次代の担い手、未経験者採用に注力

ウィルオブ・コンストラクションの前身であるC4は、東日本大震災の復興への貢献を目的に立ち上がった。「復興を最も担うのは建設業であり、その中核を担うのが施工管理者」（同社担当者）と感じ、復興に携わる建設技術者の派遣事業を始め、現在は全国的に技術者派遣事業を続けている。技術者求人サイト『施工管理求人ナビ』や施工管理技士応援メディア『施工の神様』を運営しており、知名度も高い。

2018年にウィルグループ入りし、19年10月に現在の社名になった。派遣先企業数は約150社で、在籍技術者数は約600人。

その在籍技術者のうち58人が女性となっている。女性活躍は、業界全体の取り組みではあるが、「現場レベルではまだまだ浸透していない」と感じている。女性技術者の絶対数が多くないため、派遣市場に流れてくる人材も少ないのが実情だ。このため現在は、次代の担い手となる未経験者の採用に力を入れており、4月には138人の新卒技術者が入社する予定で、うち68人を女性が占める。

人材の派遣に当たり同社では、「派遣だからとか、自社正社員を優遇するなどはやめて、『1人の技術者』として見てほしい」と常々、派遣先に求めているという。

連絡先はこちら

■お問い合わせ　株式会社日刊建設通信新聞社
カナリヤ通信編集部
TEL03―3259―8711
FAX03―3259―8730
■ご意見・ご感想は　canaria@kensetsunews.com
webで公開中
「カナリヤ通信」は、日刊建設通信新聞社の登録商標です。